

2007年9月10日

「第50回 建築士会 北海道大会」に参加しました

(社)東京建築士会
青年委員 莊司和樹

9月6日(木) 23:50 / 出発日前日

苦渋の決断

深夜まで吉村青年委員長と連絡をとりあった。というのも台風9号の影響で出発日前日から飛行機の欠航が相次いで発生したからだ。結局、吉村委員長を含めた早朝出発組の便は欠航となってしまった。振り替えには正規料金が発生してしまう。これまで全国大会に向けて東京建築士会青年委員(以下、東京青年)からの参加組は、ともに盛り上げて当日の行動を計画してきた。一部のメンバーだけ正規料金を支払って大会に参加することもできた訳だが、行くのであればやはりみんなで行きたい。悩みぬいたあげく大会参加を断念した。苦汁の決断であった。たまたま午後の便を予定していた僕達は、どうにか定刻通りに出発した。今回、大会に参加できなかった青年委員の方達のためにも、何かを吸収し、それを持ち帰なければという使命感のようなものを感じながら帯広へと向かった。

9月7日(金) 16:00 / 大会前日

来年の徳島では、四国の青年有志達と懇親を図ろう!

帯広に到着し、ホテルのチェックインを済ませ、明日の大会会場となる十勝プラザへと向かった。第50回建築士会全国大会という垂れ幕が目に入ったとき、なぜか武者震いがしてテンションがグンとあがる。



今大会のメイン会場となる「とかちプラザ」。

早速、関プロ青年協の出展ブースの設営状況を確認。すでに神奈川県建築士会の皆さん達が設営をほぼ完了されていた。会場のいたるところで設営の準備が進められている。いよいよだ。。



9月7日(金) 17:00 / 大会前日

市民・行政・建築士の連携による事業展開

青年企画の前夜祭 トカチ・スローナイトに参加。そこで、(社)北海道建築士会 札幌支部青年委員(以下、札幌青年)の浅沼さんから、札幌支部青年委員会の皆さんを紹介される。その後、店を変えて、札幌青年委員長である稲垣さん達とともに懇親。札幌と東京とで状況報告を行ったり、今後の青年委員としてのビジョンを語り合った。

一般市民と行政と建築士の連携。

それを青年の力によって積極的に事業化していきたい。

来年の徳島大会では、それぞれの成果報告を持ち寄りましょう！

話が盛り上がってきた所で、次の店に移動。そこで、連合会青年委員長の木村さん(東京青年)や、関プロ青年協会会長の青柳さん(長野青年)と合流。明日の大会に対する連合会青年としての方針・考え方、大会の見所などを教えて頂けたため、いよいよ明日の大会が楽しみに思えてきました。

9月8日(金) 10:00 / 大会当日

交流プラザ(屋台村)って面白すぎる!



前日までの雨が嘘かのようなドッピーカンな青空が広がりました。とりあえず交流プラザへと足を運ぶ。

すごい!

前日の懇親会で**市民と行政と建築士**というテーマで、具体的にどんな事業を行っていくべきか議論したこともあったせいか、どのブースの展示内容も面白い。あーこんな活動もできるのか!なるほどそうやって広げていくのか!といった具合に、一人うなされながら、何度も何度も見て回りました。その中でもとりわけ興味を引かれたブースが、静岡県建築士会さんと大阪建築士会さんの事業です。次のような内容でした。

(社)静岡県建築士会 ~景観整備機構は何をめざすか~

日経アーキテクチャーの記事をご覧になった方もおられると思いますが、静岡県建築士会は、全国に先駆けて景観整備機構への参加の名乗りを上げました。現在は円滑な体制づくりに重点を置いているそうです。まさに、市民・行政・建築士が連携した事業の典型例のように感じました。

(社)大阪府建築士会 会員会勢委員会青年分科会 ~こどもの考える夢の建築~

小学校における総合学習の一環として位置づけられた事業として、2001年から始まり、その企画内容が年々、進化していることに驚かされました。年を重ねるごとに質が高まっていく事業の実例とも言えます。その理由は、事業をやりっぱなしにせず、きちんと問題点・反省点をまとめて、翌年に繋げていくといった姿勢にあります。非常に学ばされました。

その後、東京の三井所会長や、千葉の青柳会長をお見かけしたので、関プロ青年ブースへご案内し、展示内容をご説明。その後同様に、東京青年OBの霜野さんと高塚さんをご案内しました。



9月8日(金) 13:00 /大会当日

信頼できる建築士ここにあり！ってアピールしてこうよ

午後からは、セッションDに参加。前半は、建築士会を代表して交通省の委員会に参加されている藤本さん(東京建築士会)より、これまでこういったやりとりが委員会内で行われてきたのか、その経緯や進捗状況についてご説明頂きました。



後半は、建築教育、構造専攻建築士、生産専攻建築士、設計専攻建築士の各パネリストによるパネルディスカッションとなりました。木村さんがコーディネーターをするから覗いてみようといった程度の軽い気持ちで参加していたのですが、このパネルディスカッションを通じ、僕ははじめて専攻建築士制度について真剣に考えさせられることとなります。専攻建築士制度とは、分かり易く言えば十把ひとからげにくくられている建築士資格について、どんな業務を専門としている建築士なのかを一般市民に明示していこうという制度です。ようするに、実情が不透明な建築士資格に対し、建築士自らが、透明性・公平性・健全性を付加していこうというものです。それによって、市民は、依頼先の建築士を選びやすくなる。そういった運動を建築士みずからが社会に働きかけていくことによって、建築士の倫理観に対する姿勢というものを社会に示すこともできる。それが専攻建築士制度です。



会場からは、それならもっと連合会の方で、専攻建築士制度というものを社会に浸透させて欲しい。そうでなく
ては、専攻建築士になったけれども、それでどうなるの？という次元の話から飛び出せない。そういった声も上
がりました。

僕も今まではそのように考えていました。ただ、今回、参加してみて考え方が大きく変わりました。
専攻建築士制度を社会に浸透させていくのは、連合会ではなく、**他ならぬ私達自身である**ことに気づいたのです。

たまたま、前日に札幌青年の方達と今後は、市民と行政と建築士とが連携し、街づくりを通しながら、「**信頼で
きる建築士ここにあり！**」というアピールを積極的に行っていくべきだと話あったこと。そして、その具体的な
活動内容ついて、交流プラザに出展されている各ブースの内容が大変参考になったこと（交流プラザは、まさに
事業検討材料の宝庫でした）そして、同じ東京青年である木村さんがコーディネーターとして奮闘している姿を
目の当たりにしたこと。それらが頭の中で混ざり合って、あれよあれよという間に何か僕の中の心に何か芽
生えはじめました。

そうだ、この会は、我々の建築士会なんだと強く感じました。これまで、建築士会活動についてどこか受け身的
に考えていた自分の存在に気づきました。

やろう！積極的に事業を進めていこう。せっかく、（社）東京建築士会青年委員会という活動の場があるんだ。事
業を進めながら一般市民の皆さんに専攻建築士制度というものをアピールしていこう。それを他県の青年達にも
勧め、広げていこう。内輪で完結してしまう閉ざされた建築士会活動から脱却するためにも、市民、行政、建築
士とが連携した事業展開を実践していきたい。地域社会に建築士として何かを発信していきたい。地域のお祭り
でビールを売ったり、焼きそばを作ったりすることから始めてもいい。建築士という職能を活かしながら、地域
社会コミュニティーの形成を促進させていこう。その際、専攻建築士制度というものを1つのツールとして活用し、
「**信頼できる建築士ここにあり！**」というアピールを地域社会に示していこうじゃないか。そんな思いがこみ上
げてきました。

今回の北海道大会は、非常に学んだものが多かったです。近日中に、第一部会新規登録者セミナーWGを通して、
セッションDの東京青年版を開催し、僕が今回の大会で学んだことや、交流プラザを通じて知った各地域の事業
活動について東京青年の皆さんにお伝えしていきたいと思えます。

以上